

序

理学療法士や作業療法士を目指す方々にとって、生理学は解剖学とともに人体のさまざまな働きを理解するために大切な基礎的な学問であります。生理学の対象は細胞の働きから脳の高次機能まで幅広く、それぞれの分野はたいへん興味深いものです。生理学を学びはじめるとき、皆さんは「学ばねばならない事柄があまりに多く、また難解だ」と感じられたことでしょう。しかし、人の健康と病気を扱うときになってはじめて生理学の大切さがわかるものです。医学は生理学をはじめとして基礎医学の発展に大きく支えられてきました。理学療法学と作業療法学は医学を基礎として発展してきた分野ですので、生理学が理学療法学と作業療法学を支える大切な柱であることは当然であります。しかし、学ぶべき科目は多く、生理学にのみ時間を費やすことができません。皆さんは限られた時間で生理学を学び、理解して国家試験に臨まなければなりません。

本書は実際に理学療法士・作業療法士などのコメディカルの教育にたずさわっている人たちで執筆し、限られた時間で効率よく国家試験対策ができるように配慮された本です。学ぶべき生理学の分野を13章に分け、最初に概念図で章全体の概略がわかるようにしました。重要な項目について理解しやすく、覚えやすいように短く解説しました。本書は重要な語句は空欄にして自分で書き込み、自分だけのオリジナルな参考書として使えるように工夫されています。また知りたい重要な語句は赤文字にしてありますので、赤シートで文字を隠すことができ、しっかり理解して覚えるまで何度もくり返し学習することができます。医学専門用語は「生理学用語集 改訂第5版」(日本生理学会/編)に従い、用語の混乱を避けました。本書で人体の機能に関する基礎知識を確かなものとし、国家試験に役立ててほしいと心から願います。

最後に本書の執筆にあたり、常に励ましと惜しみない協力を頂いた羊土社鈴木美奈子氏、中川由香氏に深く感謝の意を表します。

2007年8月

編集者および執筆者一同